

議 長 続きます、受付番号第8号 平野由里子君の一般質問を許します。登壇願います。

1 番 平 野 お許しをいただきましたので、質問させていただきます。

受付番号第8号、第1番 平野由里子です。町の教育への取り組みについて質問いたします。

松田町立幼、小・中学校の適正規模・配置のあり方については慎重な検討が必要ですが、次のことをお尋ねします。

1 番目。平成28年9月中を目途に方向性を決めるとのことですが、当初平成27年度中に方向性を示すとされておりました。おくれた理由は何ですか。

2 番目。アンケート結果では、保護者・町民・教員は「松小・寄小は存続、寄中は松中に統合」と「小中学校それぞれ統合」を合わせて、何かしら統合すべきと考える方の割合が最も多くなりますが、児童生徒では現況のまま存続を望む回答が最も多い。これに対するお考えをお聞かせください。

これとまた少し違うテーマですが、2 番目。登校時間帯の交通規制を見直すことについて、児童の安全に対する町の姿勢をお聞かせください。

以上、よろしく願いいたします。

教 育 長 おはようございます。まずもって皆様には、日ごろICT機器を初め、学校の施設設備の整備や、園・学校の警備員の配置などの安全面での配慮や給食費等の補助、さまざまな助成等々、子供たちの教育環境整備に温かい御理解と御支援をいただいておりますこと、冒頭、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、それでは平野議員の御質問に順次お答えいたします。

まず、1 点目の御質問でございます。平成27年度に、松田町立幼稚園、小・中学校の適正規模配置に関する座談会を設け、幼、小・中学校PTA関係者12名、地域代表者9名、公募1名の22名で組織して、7月から翌年の2月まで5回の会議を行ってまいりました。ワークショップ形式で、松田町の学校は今後どうあるべきかを考えるため、テーマの「こんな学校で学びたい」「あなたが見て子供が学ぶ学校教育をどう思いますか」「学校が楽しくなるために」について率直な意見を出していただきました。その中で、アンケート調査について

も検討し、昨年暮れに実施いたしました。地域住民や保護者を交えた議論、さらに、アンケートを実施しながら現在、町教育委員会としての一定の方向性を示したところでもあります。

御質問の27年度中に一定の方向性を示したいとするお話は、この座談会を設けるときに、27年度に1年かけて一定の方向性を示したいということでお話をさせていただきましたが、今回、町内全家庭、保護者、児童・生徒、全教員対象にアンケートを実施し、その他自由意見もたくさんいただきました。アンケートの集計、そして、アンケートをいただいた意見の集約・分析に思いのほか時間を費やす結果となったことがおくれた大きな要因であります。また、そのアンケートで頂戴したさまざまな御意見を踏まえ、住民の皆様に対してアンケート結果について丁寧に説明を行っていく必要があると判断いたし、対応してきた結果、おくれたものであります。おくれたことに対しては大変申しわけなく思っております。28年度に入り、住民説明会や保護者説明会、パブリックコメントの実施を経て、この今回の報告をさせていただいております。

このようなことから、経過を見ながら28年度に教育委員会としての一定の方向性を示しました。より望ましい学校のあり方と、第一義的には子供の学習環境を整えることを考えて、この9月には町としての方向性が決定されるものと考えております。統合にしても、統合までの諸準備にかなりの時間がかかってしまうことも考慮し、将来的な子供たちの学習環境を考えますと、ここでその方向性を示すことが適切だと考えておりますので御理解を賜りたいと存じます。

さて、2点目の御質問の子供たちへのアンケート結果を見てどのように考えるかということですが、子供たちのアンケート結果から、まず、学校別に見ますと、寄小・中学校の児童生徒のアンケートでは、62人に対して50人から回答を得、80.6%の回答率でした。「学校を存続する」という回答が56%と半数を超える結果となりました。「寄小学校は存続し、寄中学校を松田中学校に統合する」では24%、「寄小学校、寄中学校とも統合する」を含めると38%という回答でした。

一方、松田小・中学校の児童生徒のアンケートでは、479人に対しまして439

人から回答を得、91.6%の回答率でした。「学校を存続する」という回答が55%と半数を超える結果となりました。「寄小学校は存続し、寄中学校を統合する」では5%、「寄小学校、寄中学校とも統合する」を含めると22%という回答でした。

回答から見られるのは、寄小・中学校、松田小・中学校の児童生徒ともに、存続すべきという回答が半数を超えているということです。学校「存続」を選択した児童生徒の意見として寄小学校・中学校の児童生徒では、「人が多いのが好きではない」「今が楽しいから」「松田・寄のそれぞれのいいところがあるから」「通学時間が長くなるから」「人が多くなるとうるさいから」などの意見の一方で、「統合」を選択した中学校生徒では、「部活動がもっとふえてほしいから」「人数が少なすぎるから」「たくさんの人との出会いがしたい」という意見で、小学校児童では、「中学になって部活動ができないから」「考えや意見の違ういろいろな人の意見を聞けるから」などの意見がありました。

また一方、松田小・中学校の児童生徒のアンケートでは、「存続」を選択した意見で、通学に関して不便さや時間がかかることを挙げ、「今のままでよいから」「学校のよさをなくすべきではないから」「統合したところで特に変わらないから」という意見で、「寄中学校を松田中学校に統合する」とした意見では、「人数が多くなり協力もできるから」「新しい友達ができるから」「人数が少ないから」などの意見がありました。

このように、児童生徒の統合や存続に対する考えや意見はさまざまですが、毎年行っている小・中学生への学校評価のアンケート調査結果を見ますと、「学校へ行くのが楽しいですか」という質問に「楽しい」と答えている小・中学生は約8割を超えており、児童生徒の多くが現状の学校生活に満足しており、統合によって今の環境が変わることへの不安といったものから、存続を望む声になっているのかなと思っております。子供たちのアンケートを含め、保護者、地域住民、教職員のアンケートから、それぞれ統合に対してどのような思い、考えでアンケートに回答していただいたかは、深く読み取ることは難しい面がありますけれども、一定の方向性は読み取ることができると考えます。

平野議員の御指摘のとおり、子供たちのアンケート結果は「存続」に対する

回答が多いわけですので、今回、教育委員会としての一定の方向性の趣旨等につきまして理解を深めるとともに、児童生徒から率直な考えや意見が聞ける場も設ける必要があろうかと考えているところでございますので、御理解を賜りたいと存じます。以上でございます。

次の御質問につきましては、本山町長より回答いたします。

町 長 それでは、（２）の御質問について私のほうからさせていただきます。児童の安全に対する町の姿勢ということですので、よろしく願いいたします。

現在、松田小学校の指定通学路で交通規制が実施されている道路は、町道で7路線、10区間となっております。この交通規制は、道路における危険の防止と円滑な交通の確保などを目的として実施されておるところでございます。この登校時間帯の交通規制を、町として見直すことを検討する場合の事務上の進め方については、町の政策として実施する場合と自治会や関係団体が主体となって、交通規制の見直しについて要望があった場合に行う2通りがございます。

自治会や関係団体からの要望の場合は、まず、要望団体様からの内容等々についてヒアリングを行った後、要望箇所の交通量調査を実施し、その結果をもって、交通管理者であります松田警察署に要望内容の説明と調整を行うこととなっております。当然のことながら、この時点で交通規制内容が決まるわけではございませんので、続きまして、関係自治会さんと児童生徒に係る松田小学校、松田中学校、同PTA役員会、教育委員会に要望内容の説明と教育委員会を除く各団体から交通規制内容について賛否の意向を確認をさせていただきます。その後、各団体からの賛同の有無を踏まえて、庁内関係各課との検討・調整を行い、見直しをしないというふうに判断した場合は、松田警察署さんにその旨を御報告をさせていただきます。

また、交通規制見直しを進める場合につきましては、町の方針（案）を作成いたしまして、交通管理者として松田町を直轄している松田警察署と事前の協議を行うことになっております。その後、交通規制見直しにつきましては、協議した結果や松田警察署との調整に基づいて、通学路として使用されている児童生徒の保護者に対し、交通規制の見直しについてアンケート実施をするということになっております。アンケート調査を実施した後は、その結果も含めて、

再度松田警察署と協議を進めていきます。交通規制の見直しについては、松田警察署と町の協議が整った段階で、町から松田警察署さんに交通規制見直しの要望書を提出することになります。

参考までに申し上げますと、要望書を受理していただいた後は、松田警察署と現地確認を実施後、神奈川県警本部で神奈川県公安委員会に諮るかを決定していただいて、神奈川県公安委員会で許可について審議されることとなります。町の政策として実施する場合も原則同じ対応の流れとなります。

児童生徒の安全に対する町の姿勢といたしましては、規制の見直し等の要望があった場合は、児童生徒の安全を第一に考えた上での結論が出るように、関係各位の皆様方と協議・調整を行うというふうに考えておるところでございます。以上でございます。

1 番 平 野 お答えありがとうございます。

ちょっと、適正規模のほうがちょっと時間がかかるので、先に交通のほうを再質問というか。もう望んでいた答えそのまま、やはり一番重視してほしいのは児童生徒の安全ということで、やはり地域の要望も、全員がそう要望しているかという、そうでもない場合があります、特定の方の要望ということが時々ありますので、本当に最終的には児童生徒の安全で御判断をお願いいたします。と申しますのは、ちょっと私事ですけども、私も自分の子供が中学生のときに一方通行の通学路で自動車とパンとやってしまったことがありまして、朝というのは本当にすごく双方急いでいるので、一方通行でも危ないという部分がとてもありますので、ぜひ御検討はよろしくをお願いいたします。

では、もう一つの適正規模のことなんですけれども、この問題は本当に大きな問題で、もうこれは町全体がかかわってくるというふうに私も認識しております。この①の方向性を示す時期がおくれた理由ということで、これは本当に事情がよくわかります。本当に広範なアンケートだったので、まとめるのも本当に大変だっただろうなというふうに私も感じておりました。なので、昨年末の12月の全協で、たしかアンケートのことが説明されまして、それを1月にまとめて、1月中にはパブリックコメントを出してみたいな、最初そういう予定を話されたので、私自身もその時点でパブコメを出すということは、やはり一

定方向の何かをこちらが提示しないと書きにくいから、そんな1月上旬、1月下旬までにそんな一定の方向が出るんですかという質問をした覚えがありますので、逆に、時間がかかるのは当然だろうなというふうには思っておりました。なので、事情は御理解いたします。

そうすると、やはり経過がすごく大事だというふうに思うんですけども、ちょっと時系列で整理してみまして、幾つか確認させていただきたいんですが。アンケート集計出してから、全協で3月8日に分厚いそのもの、アンケートのそのものを集計のあれをいただきまして、そのときには、特には詳しいことは何もおっしゃらなかったと思うんですね。その後、説明が詳しくあったのは、6月3日の総務文教だったんです。そのときには、まだ教育委員会としても町としても一定の方向は出ていないというようなことでした。そのときの説明というか、そこに書かれていたこれからの予定ということで、6月中旬に松田内、寄、2回ずつ町民説明会を行う予定だと。ここでアンケート結果を報告して、町民からの声も聞きたいという話をされていました。同時に、検討委員会を立ち上げることとパブコメを実施すること、そして9月末までには町として方向性を出すというふうに私たちは6月3日に聞いたと思います。それから、実際その6月中旬の説明会、4回あったうち1回、私ちょっと出てみようと思ったら、まさにそれが6月19日で私しか行かなくて中止になっちゃったというその回だったんですけども。松田側は1回、そして寄側は2回というふうになったと思います。このとき、資料だけいただいて帰ってきたんですが、これは6月3日の総務文教のときと同じものでした。ほぼ同じものでした。7月6日の全協で、この6月中旬の町民説明会について私たちは報告を聞きました。

このとき、やっぱりちょっと問題だなと思ったのは、6月の4回の説明会のうちの2回が学校公開日と重なっていたという指摘が参加者からもあって、これに関しては教育課のほうで謝っていらっしやいましたけれども、本当にこれは同じ管轄内での計画を立てる段階で、これはちょっとあってはいけないミスではないかなと思ひまして、これはどうしてかなと聞いても、きっとあれなんだろうなと思うので、あえて聞きません。反省していただけると思うので、やはりこれは十分に調整をしていただきたいことでした。

このときの内容として、松田側の説明会、1回しかできなかったやつは、実は町民が3人ほどしか来なかったというようなことでした。それから、逆に寄側での説明会は、かなりの人数がいらしたというふうなことでして、意見もすごくいろんな方がおっしゃっていたんですね。3年前のあり方検討会の委員もしていたという方も出ていたようですし、いろいろな声が出ていました。そんな中でちょっと拾ってみましたけども、少人数の利点を皆でそのときに確認して「存続」となったはずだと。寄独自の教育スタイルを目指すということだったはずだというふうな保護者の声ですね。それが見えないまま3年が経過してしまったというふうな失望感というようなことを表明されておりました。これに関して、私もそのとき出席したのだと思うんですが、別に直に寄の友達から聞いた声では、その後、寄小・中両校長がかわってしまったと。また、教育長もかわり、要するに担当がかなりかわったと。それで、あり方検のそのときの熱を肌で知る人がとても少なくなってしまったというような声がありまして、やはり保護者としてちょっと失望の声です。

これに対しては、町の教育委員会は、やっているというようなお答えをその説明会でもしていました。実際に8月の全協でも飯田議員が同様の質問をされていて、教育からの答えとしては、教員をね、加配というか手厚い配置をしてきたというような答えがありました。なので、教育委員会としては、やっているというふうな気持ちもあると思うんですが、やはり保護者の印象とのずれがここにあると思うんですが、これに関してはどうお考えでしょうか。

教 育 長 御指摘の点については、確かにそういう面はあるというふうに思っております。なかなか、御承知のように年に数回、学校を公開したり、学校公開週間等をもって、地域の人にもぜひ学校の様子も、取り組みの様子も見てほしいということで御案内はするんですけれども、なかなかですね、保護者の方は見えても、一般の方がなかなか見えない状況は否めないところございまして、学校でのそうした取り組みや、やっていることがなかなか地域や周りの人に見えていないというのは、事実だというふうに思っております。ただ、御承知のように小・中学校ともですね、指導要領に基づいて教育課程が組んでありまして、その中で、例えば寄小学校と松田小学校が交流をするとかですね、そうしたや

っぱり状況については、かつてからもやってはいたんですけども、なかなかゆとりもなくなった状況の中で、そうした日程を組むこと自体が、それで進度もそれぞれ違いますので、そういう中で交流をするということについては極めて難しい状況になってきたのも事実でございます。それでも現在、1回はやっておりますし、ただ、そのほか、やっぱり地域の特性を生かした取り組みや、それから特に寄小・中については少人数でもありますので、やっぱり先生方みんなが、その1人の子供にかかわる回数が多いし、子供自身もいろいろな場面で、出る場面も非常に多いし、発言する場面も多いわけで、そうした小規模の特性を生かした取り組みというのは、これまでも各学校ごとに先生方もやっていただいていると、また、きているというふうに私も理解をしております。

ただ、今回こういう結論になった一つには、やっぱり小規模といってもですね、やはり、じゃあ何人でもいいかということになりますと、今回、中学校のほうを見ますと、ことしは1年生5人、2年生5人、3年生15人なんです。3年生卒業しますと、今の状況では1年生が3人入って、5人、5人という状況で、小規模といっても極めて学級数は小さい、学級の人数、生徒数が小さい。そういう中で、例えばグループを組むにしても、グループ会もできない。そういう、やっぱり先生方の努力だけでは解決できない、やっぱり友達同士がお互いが切磋琢磨する中で育つとかですね、多くの人の、他人のいろいろな考えを聞いて自分が勉強するとか、あるいはそういうことを通して学ぶという面で、やっぱり教師の努力だけではなかなか解決ができない問題が生じてきておりますので、そうした新たな状況を踏まえた中で、今回そうした判断の一つにさせていただいたということでございます。

1 番 平 野 そのずれをどう考えるかというところで、もう少し聞きたかったところもあるんですが。やはり保護者も学校公開に行っても、何か特性が、まだ生かしてないなというふうにずれて考えている保護者が多かったという、そういうずれなんです。やっぱりちょっと私は、この件に関しては、保護者一般に関する広報ですね。こういう特性を生かしてやってるんだよということをもっと広く言っていかなければ、幾らいいことやってても伝わらなければ、ああ、寄りたいよと言って認識してもらえないので、せっかくいいことやるのなら、

もう少し広めていってほしいなということがありました。

ここではいろいろな意見が、本当にこのときの、6月の中旬の寄会場ではいっぱい出ていて、それは皆さんも、それから議員の皆さんも資料をもらっているんで、もう一度よくお読みになっていただければなと思います。本当にリアルで切実な声がね、出ていたのですね。

そんな中で一つ、ちょっとこれはビジョンに関係する声かなと思ったことが、もし統合するんなら、浮いた予算は子供たちのために使ってほしいという声があつて、これは本当にそのとおりだというふうに私も思ったんですね。またこれ、その説明会のときでなく直接友達から聞いた声でも、もし統合するなら浮いたお金はぜひ、今度は小学校をね、何とか寄の小学校を、その自然豊かな特性を生かして、小規模な特性を生かすということ、情熱を持ってやれる先生をぜひ見つけてきてほしいというような声を聞いております。そのことは本当に、ぜひやってほしいなということなんです。

その6月中旬のね、説明会の説明を私たちは全協で聞いた。そのときに、これから7月中旬の保護者向けの説明会で教育委員会としての方向性を示しますと、そのときはっきり初めて聞いたというかね。議長からもたしか、そのとき質問で、教育委員会としての方向性は、町の方向性とは整合性どうなんですかって議長が質問されたと思うんですが、そのとき課長から、6月末の教育委員会と7月初めの総合教育会議において、寄中学校を松田中学校に統合、小学校は、あと幼稚園は存続というふうに答えが出ましたというふうに言って、本山町長もそこは総合教育会議に出られているので、了承しているというふうに、そこで初めて私たちは、はっきりと聞いたのはこの時点だったと思うんですね。つまり、6月初旬には方向性が決まっていなかったという説明だったので、つまりこの6月末、それから7月初めの総合教育会議で方向性が教育委員会として決まったと。つまり、一月足らずの間なんですよ。この一月足らずの間に、どこでどういう議論をされたのかを、もう一度ちょっと経過を教えてくださいたいのですが。

教 育 課 長 今、確かに議員おっしゃるとおりですね、6月の末の定例教育委員会、それと7月上旬のその教育会議の中で、最終的な町教育委員会としてのその一定の

方向性というのが、今おっしゃられたとおりです。それをどの時点で決めていたのかという、議論されたのかという部分につきましてはですね、当然その定例教育委員会の中でお示しさせていただいて、その教育委員会の中で、協議した中での方向性を定め、そして、その教育委員会で決まったというふうに認識しています。ですので、それは、それまで住民説明会も含めてですね、アンケート調査の集約だとか分析だとかをしていく中で、教育委員会としての方向性はこういう方向に行くのかなという部分は当然ありますし、そういう中でそれを、一定の方向性を決めるために常に教育委員会で議論してきたわけではなくて、そういったものを総合的に判断して、最終的に9月末の定例教育委員会の中での議論と、それと総合教育会議の中での町長への報告、そういうところでの教育委員会としての方向性が決まったというところでございます。

1 番 平 野 ありがとうございます。何しろ、この一月で決断を教育委員会としてされたんだなということはわかったんですね。今おっしゃった、中旬の町民説明会の声、それから定例教育と総合教育会議ということで決定したんだというお話で、経過としては、まさにそうだろうなと思っていたんですが。やはり、8月全協で飯田議員もおっしゃった、いつ統合の話がまとまっていったのかが、ちょっと見えないというようなところがやっぱり気になっておまして、合意形成の過程というのかな、それがもう少しオープンでもよかったのかなというのが少し気になっているところです。今言っても仕方がないんですが。ちょっとこの過程に関しては、私はそういうふうに感じています。

その後、7月16日に保護者向けの説明会がありまして、ここでは要するに、教育委員会の一定の方向性を初めて保護者にはっきりと公表したという場になると思うんですね。このとき、保護者からは、強い反対の方はいませんでしたというふうに、私たちはその後の、これはいつ聞いたのかな、8月になってからの全協かな、そこで聞いているんですけども。むしろ、方向性を示してくれたことにほっとする保護者もいられたというような声も、そのとき説明で聞いています。逆に、保護者のほうは、そういうふうに決定してくれたことで、今度はこの後のことをすごく心配する声が、逆にどんどんもう出てきているというふうな、そういう状態だったと思うんですね。どのくらい時間がかかるの

かとか、今、中学生の人、あるいは今、高学年の子はどうなるのかとか、そういう本当に実質的な問題がもう早くも保護者からは出ているというのが、この7月16日に関する説明会では、私たちもそれを聞きました。

その後、8月24日教育委員会、それから8月30、31日の町民説明会というのがありまして、議員もどこかしらに出たと思うんですけども。私は31日の寄会場に出ましたけれども、町民10人ほどいられたんですが、反対の声しか、意見が上がらなかったというのが、やはり非常に気がかりでした。若いお母さん方が来ていたにもかかわらず、1人が町民で、1人は議員でしたね。「反対」とはっきり言われたのが、それに対する若いお母さんの声がちょっと何も聞こえなかった。もしかしたら反対で、それで同じ意見なのかなと思ったり、自分たちは16日に言ったからいいのかなと思ってたり、ちょっとそこがよくわからず、もうちょっと意見を促してほしかったなというのが正直なところですよ。

そして9月2日、議員で山北と箱根に視察に行きまして、両町とも非常に時間をかけて丁寧に統廃合を実施しているということがわかりました。非常に勉強になりました。山北町としては、山北、清水、三保が、3中学校が1つになったんですが、全部を廃校にして新しい中学をつくったんだという説明だったんですね。吸収合併じゃないということで、これはひとつ肝だなというふうにちょっと感じました。それから、箱根町に関しては、やはり1つの中学校になったんですが、これは単に数合わせだけの議論ではなくて、箱根教育というビジョンをすごく打ち立てているという、それが特徴だなというふうに感じました。それでどちらも非常に、私たち勉強するところが多いなと感じて帰ってきたわけですけども。

この時系列はこれまでなんですが、見えてきた課題としましては、この学校のあり方という問題が今のところ、学校の数と生徒の数だけに終始してしまっているところがありまして、先ほどね、座談会でも、どんな教育をするのかって話したよっておっしゃったんですが、それが全町民を巻き込んだような議論に全然なっていないということですね。どういうふうな学校を目指すのかという議論は、今、学校に子供が行っている人だけではなくて、もう本当に広範な議論をつくらないといけないと思うんですね。これはぜひ場を設けるとか、や

って行ってほしい。本当に、けんけんごうごうになってもいいと思うんですね。それをやらなきゃいけないと私は思っています。そして、特に寄に関しては、教育委員会の方向性が出て、恐らくそのままの結果が、町として9月末に決断が出るのかなと思っていますけれども、数の議論だけに終始してしまうと、今度は数年先に小学校も統合ということが絶対出てくると思うんです。危険性としては。やはりそれは、ちょっと考えるべきだと。平成24年のあり方検で出された提言というのが、全く無意味なものとも私も思ってないです。保護者の声にあったように、豊かな環境で小規模教育を推進するんだという、そのかけ声だけではなくて、町の体制的にもそれを絶対確立してほしいなというふうに思っております。これは寄側の、その寄の子供をどうやって育むのかという議論も、もちろん町民レベルでやってほしいなというところがあります。これはYadoriki Healing Villageなんかの展開ともね、絶対関係してくると思うんですね。なので、教育課だけでの問題ではなくて、広範な議論をぜひお願いしたいところです。

例えばですね、さっきアピールがちょっと足りないのではないかというふうなことを言ったのですが、例えば単語としてね、目新しい単語なんです、エディブル・エデュケーションというのがありまして、要するにエディブルって食べるというやつですね。ともに育て、植物を育てるのと子供を育てるということですね。ともに食べる、命の教育というキャッチフレーズなんです、これ、アメリカのほうで出てきた新しいメソッドとして紹介されていて、日本の中でもいろいろな学校がちょっと取り入れつつあるところなんです。検索していただくと出てくると思いますが。でも、要はこれ、寄やってるじゃないみたいなところがちょっとあったりするんで、こういう何か、キャッチーだと言ってしまえばそれまでなんです、もう少しうまくアピールできるようなことを取り入れていく必要があると思います。

それから、あと環境に関しても、今、環境でね、いろんな補助金もらったりしているので、そういうところとうまくタグを組んで環境教育というのをぜひ推進していただきたいなと思いますし、それから、アウトドアに関することです。このアウトドア教育なんかは、ほっといたってあそこではできるわけ

ですから、いろいろな可能性を考えて、それをしっかり発信して寄をきっちり、子供を何とか育てようということを皆さんで取り組んでいければなというふうに私は思っております。この辺は町長のちょっと意気込みというか、そのあたりを聞けたらなと思うんですが、いかがでしょうか。

町 長 まず、平野議員の御提案の部分ですけども、今回、町と、町というかこっちの分と寄地域に町民説明会に参加の中に、かなりの職員がいたと思います。この件に関しましては、全課長また補佐以上の人たちは絶対に目を背けちゃいけない問題だと。ましてや、これから一緒に一つの町としてやっていく上では、いろんな情報を仕入れておくのは当然だというような思いで、非常に恐縮だったんですけども、副町長と相談をして号令をかけたところもございます。

まさにおっしゃるとおり、松田町の子供をどうやって育てるかというのが大前提でありまして、寄の子供たちだけのことだけを考えるわけでもいけない。そういったところは本当に心苦しいところでもありますけどもね、個性豊かな子供たちを育てるという部分に関しましては、今まで教育の条件についてはちょっと足りてないというところもあったり。また、今おっしゃってもらったようなことを授業中に今度はやるという話になってくると、教育の文科省からおりてるカリキュラムの中でなかなかとてもできないなどなど、どっちかといえれば個性豊かな子供たちが育てられないような学校に今なってるということを考えると、教育委員会さんも非常に苦慮されているなというふうに非常に感じているところでもございますので、ぜひともですね、あの地域を生かした格好で、文科省さんからおりてきている内容を活用しながら独自の教育システムというのがつくれるようであればですね、やっていきたいという気持ちはもう随分前からあって、それを教育委員会さんのほうも重々把握されているんですけど、なかなか規制というか、先生たちのまた余裕の時間がないとか、そういったところでやっているところでもございます。

ただ、幸いにして皆様にも御理解いただき、ICT教育の中で、緑の中のICT教育ということでやらせてもらっていることに関しましては、先生たちもですね、御理解をいただきながら、新たな発見をしながらですね、子供たちと一緒に今、授業をやっているということも聞いておりますので、本当に可能な

範囲、できることは、御指摘いただいたようなところをしっかりと考えながらですね、やっていけるように行政側の長としての責任も果たしながらですね、教育委員会の方々とまた話ししながら進めてまいりたいというふうに思っております。以上です。

議 長 今の質問の中で、統合の検討にかかる時間に対する回答及びその統合のですね、方式に対する回答というのを求めますか。

1 番 平 野 はい。

議 長 じゃあ、教育担当のほうで回答をお願いします。もう質問時間は切れておりますので、先ほどの質問の中でですね、回答がされていないその2点について、回答のほうをお願いいたします。

1 番 平 野 すいません。町長の言葉に関してのちょっと、あれがあるんですが。

議 長 それは回答が終わってからお願いします。（「議長、求めるかどうかは議長の話、要らないよ。先に自分が質問があるなら質問……」の声あり）じゃあ、今の町長に対するですね、質問のほうをお願いいたします。

1 番 平 野 済みません。ちょっと時間超過しまして申しわけない。

町長のおっしゃることが本当に全てで、そういう心意気でやっていただきたいと私も思っているんですが、ひとつやっぱり、先ほどおっしゃった中で、寄だけではなく町全体とおっしゃっていて、町長は十分認識されていると私は感じました。やはりその中に町長のおっしゃるおもてなしなんですけれども、結局ここでね、ここで発揮しないでどうするんだというところがすごくありまして、ちょっと生の声を聞いている範囲では、余りにも町側の関心が薄い、それがすごく不安だと。もう本当に事実上ね、これは、松田中学校に統合になるのはもうやむを得ないと思っているけれども、こんなに関心が薄いところに子供を送り出さなきゃいけないのは親として怖い、不安だということをすごく聞いているんです。子供はまして、さっきの数のように、変化を恐れるという答えがアンケートで出てますので、これはもう本当、こうなってくると、逆に松田がどうやって受けるかが問題になってくるので、本当に松田側への投げかけというのを教育部局からももちろんですが、町全体としてこれはもう絶対行ってほしいことなので、その辺のところをよろしくをお願いいたします。

済みません。これはちょっと要望で終わらせていただきます。

議 長 先ほどの質問に対する回答をお願いします。（「質問ない」の声あり）いいですか。（「いいです。最後、終わりましたので」の声あり）先ほどの検討にかかる時間とか統合の方式に対する、廃校方式でいくかということの質問ですけれども。

1 番 平 野 ごめんなさい。じゃあ、そこはちょっと一言いただければ。

議 長 お願いします。

教 育 長 私も一緒にお話を聞かせていただいたんですけれども、それぞれの町の、それぞれの需要や特性もあると思います。今のおっしゃった方向性については、これからまだ検討して、そうしたいろんな情報も得ながら検討して、よりよい方法を考えていきたいというふうには思っております。

議 長 よろしいですか。以上で、受付番号第8号 平野由里子君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。10時50分から再開いたします。

（10時31分）